

2025年 8月297号

ふるさと



グループホームあじさい園

奈良で、アグネスチャンの講演会に参加。
1973年の夏、奈良ドリームランドのステージで見たアグネスチャン、52年ぶりとは思えない可愛らしさそのまんまだった。上智大学、トロント大学、スタンフォード大学で学び教育学博士号取得後、世界各国をほほえみ大使として訪問、現在ユニセフアジア親善大使として、子供の人権を守る活動をされている。
アグネスさんは6人兄弟の4番目、控えめな女の子。1人の姉は香港の女優、もう1人の姉は香港大学医学部を香港初女性首席卒業。アグネスさんは中学生の時の障がい者施設へのボランティア活動がきっかけとなり、照れ屋でおとなしかったけれど、自分の意見も言えるようになり、まわりのみんなを楽しませるため歌をうたうようになった。
施設のことも達は拍手はできないが大声で応援してくれた。まわりの目を気にせず恥ずかしいと思わずことも達の前で歌うことに無我夢中になった。エネルギーが発散し、心に余裕ができ、自分自身が楽になったことを実感したそう。
父は香港出身、母の故郷は中国の山奥の貧しい村、はじめて母の故郷へ帰ることが許された時、村中の人々がアグネスさんの歌をうたって迎え入れてくれた。歌は海を越え山を越え心を結んでくれることを確信し、歌手になることを決意、日本に渡った。
1985年24時間テレビの総合司会がきっかけでアフリカの現地を訪れ、エチオピアの現状を知った。骨と皮だけのやせ細った母にしがみつく幼児、車の窓ガラスには手のひらの膿と血、身体を覆う大きな音の黒い雲？ハエの大群だった。車からこぼれる麦を砂ごとむさぼりジャリジャリ食べる姿。
ある時、足の不自由な元兵士の12歳の少年と面会、彼は貧しくはじめな自分を笑いに來たのか、と言い放った。明くる日、彼は、昨日は言いすぎたと謝りに來て、親なき兄弟を救うためには8歳で兵士になるしかなかったと語った。
南スーダンではこどもの兵士を返してほしいと訴えた。ロシアと国境のウクライナドンバス地方、毎日サイレンが鳴り響き、学校の地下の防空壕に一緒に逃げた。
パレスチナガザの鉄ゲートは人は1人もいない、マイクから指示があり中に入ると大きな犬がいっぱい現れ、無機質な世界にタイムスリップしたようだった。
私達は、同じ時間、同じ地球、同じ太陽と月を見ている同じ人間・・・言葉は出ないが、アグネスさんのひと言ひと言を思い、心にだきしめた。

8月の行事予定

9日(土) 誕生日会

17日(日) 夏祭り

19日(火) 散髪



※塩田医師の定期往診もあります。

あじさい園のホームページもご覧ください。

誕生日を盛大に！

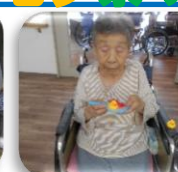
西尾様・油谷様両名のお誕生日をお祝いしました。歌のプレゼントと男性職員からの花束贈呈に大変喜んで下さり、おやつ時間も甘いケーキを頬張っておられました。



屋台顔負けの焼きそば

ホットプレートを使い、職員が腕によりをかけて焼きそばを振る舞いました。

「祭りに来た気分や！」と大満足のご様子で召し上がって下さり、普段小食なご利用者もこの日ばかりは完食されておられました♪



七夕祭り☆三